

様式第7号

環境福祉委員会行政視察報告書

平成30年11月2日

笠岡市議会議長 殿

(出張者) 議員 原田 てつよ ⑩ 議員 樋之津 倫子 ⑩
議員 馬越 裕正 ⑩ 議員 蔵本 隆文 ⑩
議員 田口 忠義 ⑩

次のとおり行政視察を実施したのでその結果を報告します。

記

【1】 社会福祉法人こうほうえん

住 所	鳥取県米子市両三柳 1400
電 話	0859-24-3111
視察案件	地域包括ケアの取り組みについて
期 日	平成30年10月22日(月) 13時30分～16時30分まで
応 対 者	社会福祉法人こうほうえん 理事長 廣江 研 理事・教育研修部 部長 永田 壽子 よなごエリア総合施設長兼 介護老人福祉施設よなご幸朋苑 施設長 高岡 久雄
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	よなご幸朋苑
概 要	(1) 組織の概要 ・設立 1986年7月(35人でスタート)

- ・事業数 166事業(35拠点)
- ・職員数 2,221名(平成29年6月)
- ・売上 119.9億円(平成29年3月)

鳥取県と東京都23区で事業を展開している。鳥取では事業別売上の内、介護が78%を占める一方、東京では介護が50%で保育が48%となっている。東京では本当に子どもを預ける場所がなく困っている親御さんが多いとのこと。また、東京では皆様々な働き方をしており、看護師を保育園に配置し、病状変化に対応するなどしてこれに応えていく。

顧客というのは利用者だけでなく地域住民全てが対象。社会福祉法人として地域のニーズに応える。制度の狭間にあるニーズを捉え新しいサービスを生み対応していくことが、愛され信頼されることにつながる。

福祉はサービスであり、自分や自分の父母が受けたいと思えるサービスであることを視座に置く。人材と苦情が2大財産。人が人にサービスを行うため、どれだけ人に投資をするかが重要となる。

境港市では、こうほうえんも包括を持っていたが、地域包括支援センターを市役所に一元化することで相談者が増えた。子どもや高齢者、財産処理、お墓など窓口を一本化することでたらい回しにしない。

(2) 地域包括ケアの取り組み

- ・特養を中心とした地域包括ケア体制づくり

施設職員を有効活用して定期巡回・随時対応サービスを地域に展開

例：施設の看護師が、在宅で暮らしている方の健康相談などを行う。ヘルパーと組んで地域周りをする。点で動いていたことが線につながる。施設の中のこともしながら地域に出かけることで日常の様子がわかり、利用者も安心して利用できる。

→在宅限界点の引き上げにつながる。

(3) 介護老人福祉施設 よなご幸朋園の特徴

- ・1993年4月開設
- ・平均年齢88歳
- ・入所者平均要介護度4.2
- ・介護士47名(内41名は介護福祉士)
- ・こうほうえんはすべての特養に医師がいるのが強み

- ・理学療法士もいる
- ・歯科衛生士がいることで誤嚥性肺炎はほぼなくなった
- ・逝去後の対応など課題

(4) 特別養護老人ホームのユニットケア

- ・1ユニットは利用者10名
- ・固定配置職員（介護者）5名
- ・24時間ケアを行う
- ・各ユニットにユニットリーダーを選任し、ケアの管理・人財育成などに責任を持つ

(5) 人財育成の取組

- ・売上の1%は人材への投資に（約1億2千万円）
- ・エルダー制度（中堅と新人が共に育つ仕組み）
→離職率に影響。特に入社して半年が重要。
- ・低離職率は適切な評価やフィードバックに基づくやりがいによって支えられている。
→年功序列でなく、スキルワーカーとして評価すべき
- ・熟練度に基づく人財育成モデルで最初に質が上がり、効率が上がった。

(6) 「気づき」を築く教育と仕組み

ご利用者理解は職員のフィルター（気づき、経験）を通して行うことになる。このため、ご利用者理解は職員の主観的スキルである「気づき」に依存する。

→気づきを築く教育と仕組みが要る。

(7) DCM（認知症ケアマッピング）

→PCC（パーソン・センタード・ケア）に基づいたケアの質の改善を目的とした評価システム。認知症の利用者に対する介護をマッパーと呼ばれる有資格者が、6時間連続で客観的に観察し数値データに基づいて評価する。

・認知症高齢者の変化には必ず理由があるが、みんな点で動いているため、変化に気づきにくい。どこが原因かわかる。

- ・こうほうえんのマッパーは51名。
- ・気づきとは状態把握能力のこと。
- ・職員の気づきの能力を上げる。在宅のケアにこそ気づきが重要。

(8) ICTの活用

- ・介護の質はわかりにくい（暗黙知の世界）
- ・介護サービスの提供プロセスでは、主に「何をやったか」は書いてあるが、「なぜそうしたか」はあまり書かれていない
- ・比較するものがないと「なぜそうした」かがわかりづらい
- ・ICTを活用し、定量的なものを解析することで「何に気づいているか」可視化する
→暗黙知を共有する

(9) 状態把握（気づき）システム

全職員がスマートフォンを携帯して日々の細やかな気づきを記録する。関わり方によって違いがある。同じ場面を見ても人によって評価が変わる。その場面を話し合うことで、その人の「ふつう」を話し合い、共有することができる。それにより、自分の気づき方の特徴もわかる。

(10) 介護における課題と方向性

- ・介護現場での気づきが蓄積・活用されていない
→介護記録を蓄積、可視化することで多面的な振り返りにつなげる
- ・介護能力の明確な評価基準がないため、評価が属人的
→根拠に基づいた定量評価の実現
- ・介護熟練化の方法論が整備されておらず介護者の自発的な成長に依存
→人材モデルに基づく効率、効果的な介護者教育の実現
- ・介護報酬は公定価格で頭打ちであり、収益の向上が困難
→組織、経営の効率化によりコストダウンを図る

(11) 排せいケアの取り組み（おむつに頼らないケアを目指す）

→おむつも拘束の一つ。尊厳を最重要視した介護の提供をする。

(12) 今後の展望

- ・施設ケアで培ったノウハウを地域へ（人と地域にどう変革を起こすか）
 - ①おむつからパッドへ
 - ②最適な家庭でのケア（mimoteの活用）
 - ③最適な認知症ケア（DCMの活用）

	<p>④口腔ケアの実施 ⑤多機能事業所との連携（通い，訪問，泊り） ⑥訪問診療 →在宅ケアの範囲が飛躍的に拡大し，施設中心から在宅中心が全国的な流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅介護へのアプローチ（5つの基本的ケアを在宅ケアで推進する） ・認知症ケアについての啓蒙 ・口腔ケアの徹底 ・在宅限界点の向上 ・根本的な課題の解決に寄与する技術の活用（AIでケアプラン作成など）
添付書類	<p>視察資料 視察状況写真 名刺</p> <p>○ ○ ○</p>

【2】 兵庫県養父市議会

住 所	兵庫県養父市八鹿町八鹿 1675
電 話	079-665-6800
視察案件	地域・企業・シルバー人材センターとともに取り組む健康づくりとフレイル予防について
期 日	平成30年10月23日（火） 10時00分～11時30分まで
応 対 者	<p>養父市議会 議長 深澤 巧 養父市議会事務局 次長 井上 隆司 養父市健康福祉部 健康課 課長 養父市健康福祉部 保健師</p>
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	-----
概 要	<p>(1) フレイルとは 加齢とともに筋力や認知機能が低下するなど，心や体の機能が低下した状態のこと。進行すると要介護状態となる可能性が高くなる。</p> <p>(2) これまでの介護予防の取り組み 要介護要因から見えてきた介護予防の重点項目 ・認知症予防→認知症の正しい理解，早期発見，認知症サポーター養成，早期治療，地域での見守り体制の整備</p>

- ・脳血管疾患→生活習慣病の予防と継続した疾病コントロール，高齢者の在宅でのセルフケア支援
- ・関節疾患 →筋力アップと転倒予防
- ・骨折，転倒→転びにくい身体づくり，環境整備等

(3) 介護予防の取り組み

- ・巡回型介護予防教室を毎年全行政区154箇所を実施。
→より身近な場所での介護予防が大切。
- ・介護予防サポーター養成，活動支援を平成19年から実施。
(平成29年12月末で357人)
- ・介護予防サポーター研修は地域包括支援センターと社会福祉協議会で実施。研修は全部で7回(6回の研修と1回のフォロー研修)
→養成して終わりにしない。
- ・研修終了後の具体的な支援として，
 - ①介護予防サポーターとしてボランティア登録などの意向調査を実施し，ボランティアのグループ化をし，スキルアップのための実施練習や定例会でフォローする。
 - ②地域での自主活動を立ち上での希望や意向を確認し，タイムリーに相談，立ち上げの計画を支援する。
- ・介護予防サポーター研修が効果的に実施できた要因として，
 - ①社会福祉協議会との企画段階からの協働
 - ②対象者の門戸を広げた(既にボランティアをしている人も受講対象にしたことで既存の活動に介護予防の知識や技術を組み入れられた)
 - ③内容を毎年更新
 - ④実践に直結する内容(体操やゲーム等を研修に組み入れる)が挙げられる。
- ・その他「やぶからぼう体操」や「元気もりもり体操」，「養父市議会前体操」などあり。(楽しみながら体操でき，継続すると筋力アップにもつながる)

	<p>(4) 元気の秘訣 (3つの特徴)</p> <p>生活の自立度を高く保っている方の生活習慣には3つの特徴がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①多様な食品をしっかり食べる ②しっかり体を動かす ③地域との関わりを持つ <p>(5) これまでの介護予防の取り組みの課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所で介護予防の教室を開催しても30人程度の参加しかない。さらに地理的な特性(山や谷が多く交通手段もない)から遠出が難しい。 →身近な場所に健康づくりの場が必要。 ・154の行政区があることから、保健師が講師をしていてはマンパワーが足りない。介護予防サポーターはボランティアであり無理強いできない。 →担い手も不足している。 <p>(6) 新たな介護予防の取組の提案</p> <p>シルバー人材センター福祉部会員に研修を行い、「笑い与健康お届け隊」として養成、フレイル予防教室を希望する行政区へ出張し、週1回全2回の教室を実施。終了後の区での体操等の継続についてフォロー。</p> <p>(7) 今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ①介護サポーターなど地域のリーダーを養成し、身近な地域に社会参加の場を確保する ②身近な社会参加の場で、地域全体で健康づくりに取り組むことで、住民同士の絆を強化する。 ③住民同士の絆は、地域での見守り力にもつながる。 →健康づくりは、地域づくり <p>(8) 経費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民からは全20回の教室で使うノート代(1人500円)を頂いている。 ・介護保険特別会計(地域支援事業)からシルバー人材センターへ補助金。 ・厚生労働省にもシルバー人材センターから補助金を申請。
添付書類	<p>視察資料 視察状況写真 名刺</p> <p>○ ○ ○</p>

【3】 兵庫県加東市議会

住 所	兵庫県加東市社 50 番地 庁舎 5 階
電 話	0795-43-0385
視察案件	加東サンサンチャレンジについて
期 日	平成 30 年 10 月 24 日 (水) 10 時 00 分 ~ 11 時 30 分 まで
応 対 者	加東市議会 議長 藤尾 潔 加東市議会事務局 次長 服部 紹吾 加東市健康福祉部 部長 丸山 芳泰 加東市健康福祉部 健康課 課長 加東市健康福祉部 健康課 保健師
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	-----
概 要	<p>(1) 従来の保健指導の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健診受診後の指導→参加者の固定化。 ・ 集団教室では人が集まりにくい。 ・ 本来アプローチしたい青壮年期男性の参加が得にくい ・ 一旦減量した人のリバウンド防止や継続支援の方法。 <p>(2) サンサンチャレンジの取り組み (H19~)</p> <p>→ 3ヶ月で3キロ痩せる事を目指すもの。1日2回体重を測り、グラフ化する。期間は10月に開始し、1月に終了。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3キロ痩せると生活習慣病が改善すると言われている。 ・ 1ヶ月に1キロならリバウンドしにくいと言われている。 ・ 対象は20~74歳のBMI23以上で加東市在住または在勤、在学の方。 ・ 申込みは若い働き盛りの方の参加を目的とし、ホームページでもできる。その他の方法としては保健センターでの直接申し込み、郵送、FAX。 ・ 使用ツールは「効果的に痩せる3つのコツ」「ダイエット宣言書」「体重グラフの付け方」「体重グラフ」 ・ 10月に開講講座をし、3月には表彰式を行う。

→体重が増えやすい年末年始を期間に入れる。

- ・参加者のうち4割弱が男性。
- ・協賛店を2年目から募集。現在は72店舗。
- ・H26の調査では、初挑戦した方は平均1.8キロの減量だった。
- ・何年も継続して参加するほど体重減少の効果あり。
- ・体重計に毎日乗る週間がついたり、運動時間が増加する傾向あり。
- ・参加者増のため、小中学校の連合PTAに働きかけなどあり。

(3) サンサンチャレンジ継続の要因

- ・「サンサン」というネーミングが親しまれている。
- ・朝晩の体重測定を基盤としたシンプルなプログラム
- ・専門家の支援が得られたこと
- ・ダイエットのコツ100選（市民がダイエットに成功したコツ100個をまとめたもの）

(4) 課題

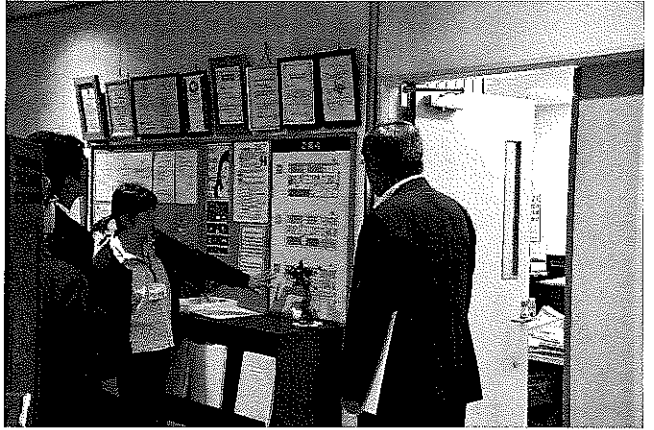
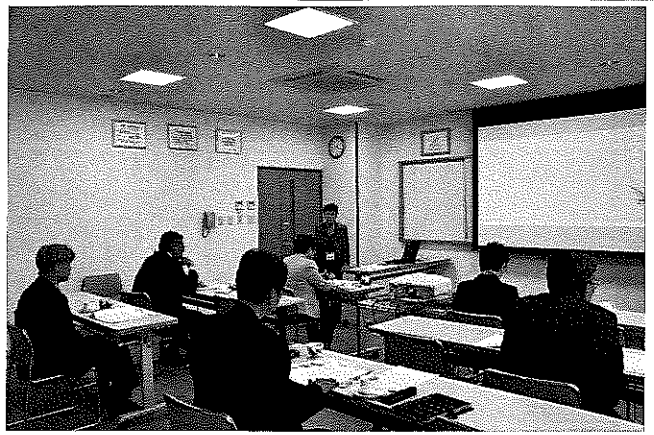
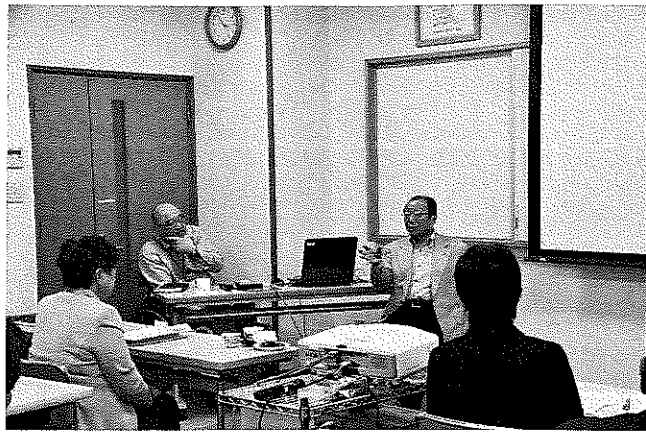
- ・事業の継続
- ・新規登録や個別支援の充実
- ・年齢で対象外となる人のフォロー体制
- ・事務作業の簡素化（人員に限りがあるため）
- ・「サンサン」事業の仕組みと運動した、市民全体の健康づくり運動への新たな展開方法

(5) 経費

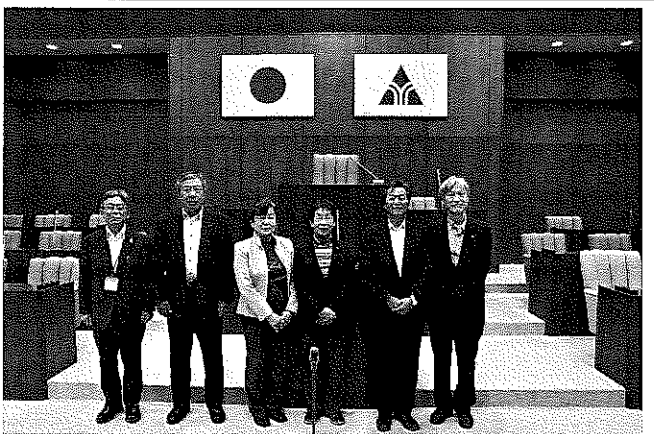
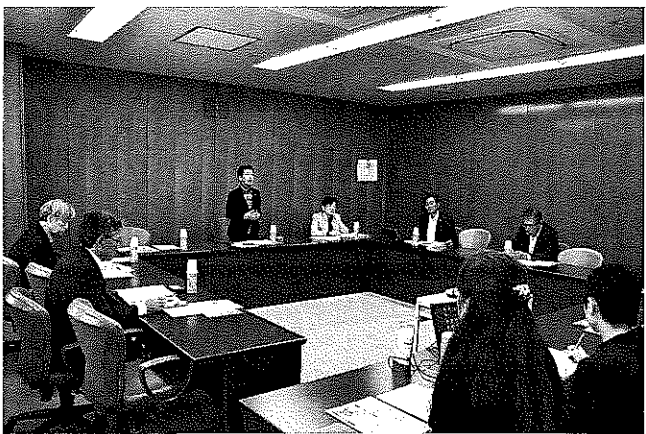
平成30年度予算106万4千円。

添付書類	視察資料	視察状況写真	名刺
	○	○	○

社会福祉法人こうほうえん関係



兵庫県養父市議会関係



兵庫県加東市議会関係

